

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。さて、今回の防災タイムズ第55号では、能登半島地震や2011年3月11日に発生した東日本大震災などの災害を教訓に、日頃からの一人ひとりの防災対策「自助」について、その一部をご紹介します。

○災害時に命を守る一人一人の防災対策（「政府広報オンライン」より転載）

地震や津波などの自然災害は、時として、想像を超える力で襲ってきます。しかし、日頃から防災対策をしておくことで、被害を少なくすることはできます。防災対策で大切なことは、自分の身の安全を守るために一人一人が取り組む「自助」。その一部を以下に紹介します。

(1) 家の中の安全対策のポイント

大地震が発生したときには、「家具は必ず倒れるもの」と考えて、防災対策を講じておく必要があります。

◇タンス：床側をストッパーなどで固定し、天井側はポール式器具で固定する。

◇食器棚：L字型金具やワイヤーなどで壁に固定し、開き戸には開かないように留め金を付ける。ガラスにはガラス飛散防止フィルムを貼る。

◇本棚：L字型金具やワイヤーなどで壁に固定し、重い本は下の段に。本棚の端の硬い部分にひもやベルトなどを取り付けて、本が飛び出さないようにしておく。

◇テレビ：粘着マットを敷いて転倒を防ぐとともに、機器の裏側をワイヤーなどで壁やテレビボードに固定する。

◇冷蔵庫：裏側をワイヤーなどで壁に固定する。

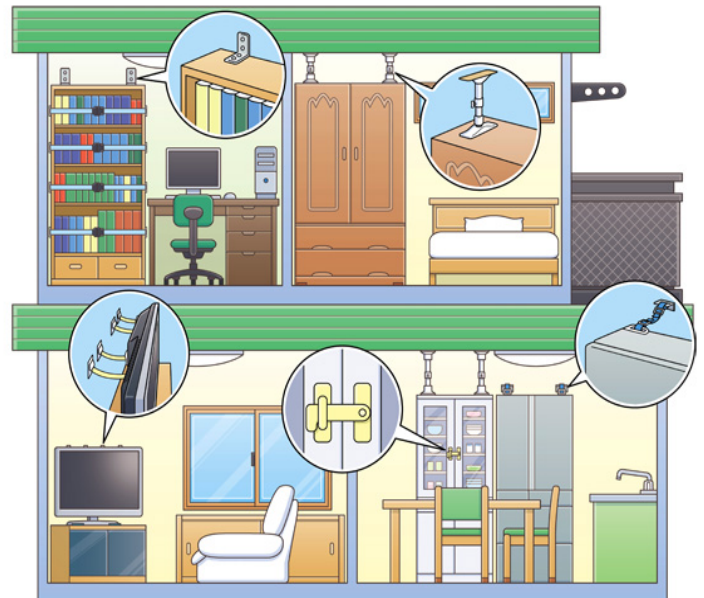
◇窓ガラス：強化ガラスに替えたり、飛散防止フィルムを張ったりする。カーテンを閉めておくことでも室内への飛散防止に効果があります。また、割れたガラスが飛散した部屋でも安全に歩けるように、スリッパなどを近くに置いておく。

(2) 地震が発生したときの、身の守り方

気象庁の「緊急地震速報」を活用することによって、強い揺れが来ることを直前にキャッチし、身の安全を守る行動をとることができます。

◇家の中：座布団などで頭を保護し、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。あわてて外へ飛び出さない。もし、火が発生した場合には可能ならば火の始末、火元から離れている場合は無理して火元に近づかないようにする。

◇商業施設など：施設の誘導係員の指示に従う。頭を保護し、揺れに備えて身構える。あわてて出口・階段などに殺到しない。ガラス製の陳列棚や吊り下がっている照明などの下から離れるようにする。



- ◇エレベーター：最寄りの階で停止させ、速やかにエレベーターから降りる
- ◇街にいるとき：ブロック塀や自動販売機など倒れてきそうなものから離れる。看板、割れた窓ガラスの破片が落下することがあるので建物の周囲から急いで離れる。
- ◇自動車運転中：あわててスピードを落とさず、ハザードランプを点灯させながら徐行し、周りの車に注意を促す。周囲の状況を確認して道路左側に停車させる。エンジンを止め揺れが収まるまで車内で待ち、揺れが収まったら、ドアをロックせずキーをつけたまま車外に出て、安全な場所へ避難する。
- ◇電車・バスに乗車中：つり革、手すりなどにしっかりつかまり、車外に投げ出されないように気を付けるとともに、車掌または誘導員の指示に従う。

○「全校生徒 約2,000人 避難訓練 4年ぶりに実施」(東邦高等学校)

平素よりお世話になっております学校法人 東邦高等学校様から、生徒に対する防災教育について寄稿いただきましたので、掲載させていただきます。なお、東邦高等学校様は、名古屋市の避難所に指定されている他、平和が丘学区と災害対応への支援協力についての覚書を締結しています。

全校生徒 約2,000人 避難訓練 4年ぶりに実施

東邦高等学校

昨年、11月22日に全校規模で避難訓練を実施しました。訓練は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実に4年ぶりの実施となりました。この防災訓練では、震度5～6の地震が発生し、化学実験室から火災が発生したという想定で行いました。

今年度、本校のクラス数は51クラスで、近年では最多のクラス数となります。災害時は、1,900人近くの生徒と100人程度の教職員、合わせて2,000人近くが避難することになります。これまでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、オンラインによる防災教育が主で、生徒たちは、避難訓練を実際に体験することができませんでした。避難訓練以外でも、全校生徒で一斉に集合した経験がなく、今回の避難訓練のグラウンドでの集合に時間が要するものと予想されました。

予想に反して、要した時間は、12分47秒で、目標であった15分のタイムを大幅に切りました。静かに、かつ迅速に避難することができたと感じています。

また、避難訓練でグラウンド集合後に平和が丘学区防災委員の方からお話しして頂きましたが、生徒たちは、真剣に耳を傾けていました。災害時に、本校生が平和が丘学区地域住民の皆様と助け合うこと、そして、高校生が地域の一員として様々な役割を果たすことの重要性を改めて認識する良い機会になりました。

今後も、様々なシチュエーションでの訓練を実施し、自らが考え、主体的に行動できる防災教育を推進していきたいと考えています。

※今回の「防災お役立ち情報」は休稿いたします。

<編集後記>

能登半島地震で被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

ちょうど公園にいた時にスマートフォンの緊急地震速報が鳴り、すぐに大きく揺れはじめたのでただ事ではないと思いましたが、あれほどの被害が出ているとは思いませんでした。私たちの住む平和が丘学区は、比較的地盤が固い高台に位置してはいますが、地震による家具の転倒のほか家屋倒壊などでの被害は無いとはいえないため、日頃からの一人ひとりの防災対策「自助」や地域で助け合える「共助」がとても重要であると改めて思いました。(編集 前島)

